

<MDPRO ミニコラム> NDB オープンデータについて

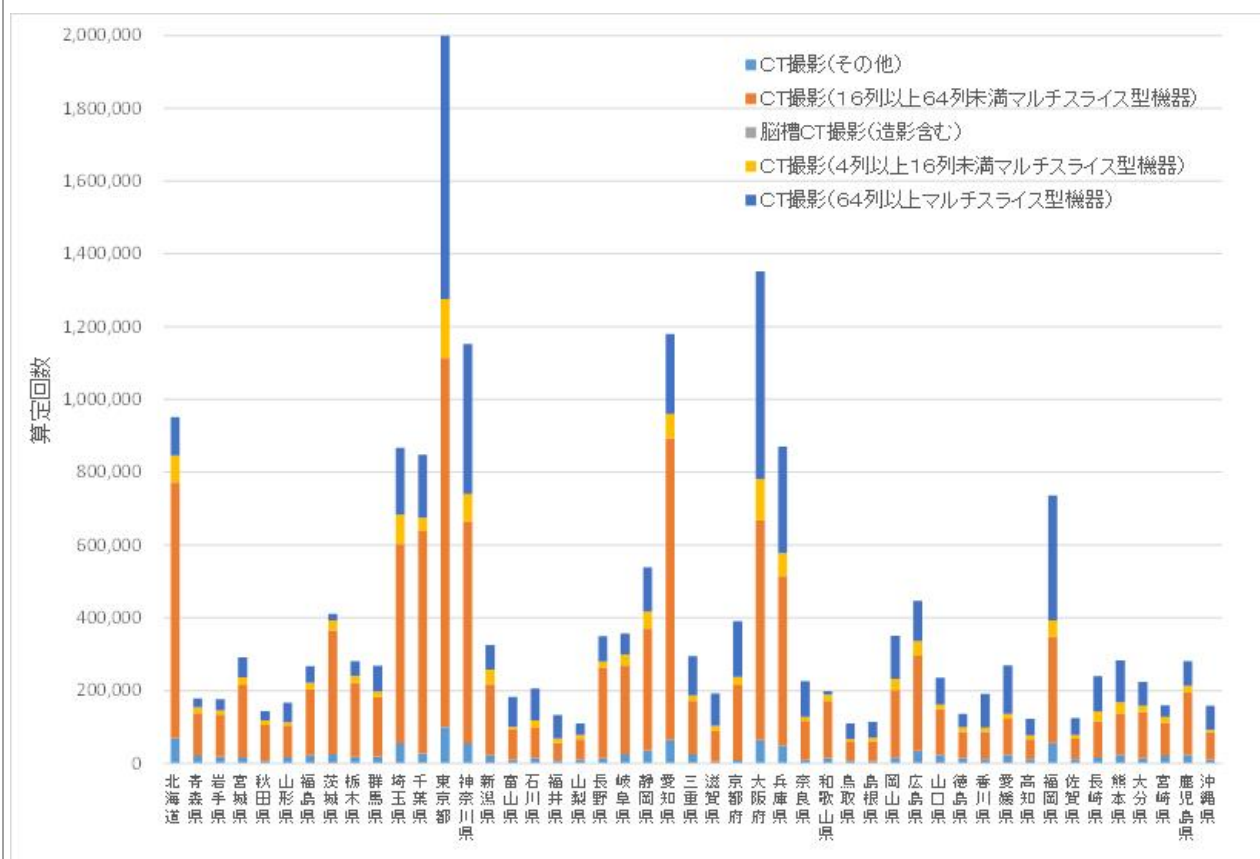
10月12日、厚労省HPに「第1回 NDP オープンデータ」が公開されました。

NDP(レセプト情報・特定検診等情報データベース)は、電子化されたレセプト(全請求の95%以上)及び特定検診・特定保険指導情報を収集対象データとして、2009年に構築が開始された医療ビッグデータです。当初は医療費適正化計画を策定する際の参照データでしたが、2011年に研究者を対象に第三者提供が開始され、2015年10月に設置された「NDP オープンデータ調査分析ワーキンググループ」による検討を経て、今回の公開に至っています。

公表されたデータは2014年4月から2015年3月の医科診療行為、歯科傷病、ならびに薬剤データ(レセプト約18億800万件)と、2013年度に実施された特定検診データ(約2,600万件)の集計表です。なお、傷病名情報と特定保険医療材料料は集計対象外とされています。

医科診療行為には処置(外来346項目、入院346項目)、手術(2425項目)、検査(外来1287項目、入院1295項目)、画像診断(外来131項目、入院132項目)等が含まれており、各項目につき性・年齢別及び県別に算定回数の集計表が作成されています。

参考までに画像診断の「コンピューター断層撮影(CT撮影)(一連につき)」の県ごとの算定回数のデータから作成したグラフを以下に示します。



県ごとの算定回数とともに使用された機器の比率が異なっていることもわかります。

MDPROではこれまでも薬事工業生産動態や貿易統計等を用いて検討を行っていましたが、今後は実際の医療の実施状況に基づいた「NDB オープンデータ」を活用した検討も行っていく予定です。

出所：第1回 NDP オープンデータ：

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000139390.html>